

---

# 横須賀かれー

源雪風

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

横須賀かれー

### 【Nコード】

N0141K

### 【作者名】

源雪風

### 【あらすじ】

横須賀の港での潮風香るボーイみーつガール。カレーと彼がかかっているタイトルですよ。

ここは横須賀の港。

潮と汽笛の音が溶けあうこの場所で、少年が一人座っていた。  
くの字を地面に突き刺したような金属の上じゃ冷たかろうに。

少年はいつも海を見ている。

少女は、そんな少年を雨の日以外毎日見かけるので、どうしてもここにいろのか聞きたくてたまらない。

しかし少年は神々しい雰囲気なので、近づこうものなら、天から大きな手がよつと出てきて少女を握りつぶしそうな気がする。

もちろん、そんなことは起こるわけがないと分かっているが、少年を見ていると、もしかするとそんなことだって起こるかもしれない  
と思ってしまう。

少年はふと、じれじれとした視線が自分に注がれているのに気付いて、振り返る。

少女と目が合う。

あの子、また来たのか。

いつも何か言いたそうにこつちを見てるんだよなあ。

少女は口をばくばくさせている。

何か言いたいけれども、声が出ないらしい。

少年は見かねて、声をかけてみた。

「どうしたの。」

少女は、びくつとして天を仰ぎ見た。

大きな手は出てこない。

「どうして君がいつも海を見ているか知りたいの。」

「さあ。どうしてだろうね。自分でも分かんないや。」

「海が好きだから？」

「そうだ！きつとそうだよ！」

少年は大発見したみたいに、喜んで言った。

「なるほど。これが好きってことか！」

少年が飛び跳ねていると、上着の間から何かがコトリと落ちた。

「あつ。横須賀海軍カレーだ。」

少女は箱入りレトルトカレーを手にとつて見た。

少年は目を輝かせて言う。

「それはね、家族に秘密で買ってきたのさ。秘密で、こっそり食べるんだ。」

「でも、温めないと。」

「ここで会ったのも何かの縁だから、君に一つ頼みたいことがあるんだけど、いいかな。」

「私の家でカレーを温めて食べるとか？」

「いや。温めてここまで持つてきてもらえないかな。海を見て食べたいんだ。風流でしょ。」

「お皿とご飯とスプーンもいるよね。」

「いや。大丈夫。ご飯はおにぎりがあるから。レトルトパックにぶちこんで、家から拝借したスプーンでガシガシ混ぜて食べるから。」

少年は秘密の大作戦を想像して、うつとりしながら話を続けた。

「カレーをね、ずっと懐に入れておけば少しは温まるだろうと思うけど、ダメで困つてたんだ。引き受けてくれる？」

「うん。じゃあ待つてね。」

少女は大切そうにカレーを持って、走り去った。

「人を待つてせつないな。」

少年は少女が去つてしばらくしてから、そう独り言を言い、ため息をついた。

はじめにしても仕方がないと思い、少年は海に向かって力いっぱい叫んだ。

「カレーー！！」

それを知つてか知らずか、船の汽笛の音が応えた。

嬉しくなった少年は、もつと大きな声で叫ぶ。

「カレー！！！」

またもや汽笛の音が応えてくれる。

「きつとみんな、カレーが好きなんだな。」

少年は満足してつぶやいた。

待つのに飽きたので、またカレーと叫んでいるとき、少女が帰ってきた。

「そんなにカレーが食べたかったの？」

「うん。」

少年は少女から、ほかほかのレトルトパックを受け取ると、丁寧に封を切り、おにぎりをパックの中に入れて、スプーンでかき回した。

辺りにカレーのいい香りが広がる。

少女は羨ましくて、そわそわする。

「お礼に、最初の一口、食べていいよ。」

「えっ、本当？」

少女はレトルトパックを受け取り、スプーンにカレーを慎重に載せて、一口食べた。

「お、おいしい！」

しかし、カレーを食べた後で少女は気付いた。

この後少年がカレーを食べたら、間接キスみたい。

どうしようかと考えているうちに、少年は全く気にせず、カレーを平らげていた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0141k/>

---

横須賀かれー

2011年1月25日04時40分発行